

バーモントが鳥取の高校生に与えたもの

鳥取県文化観光局交流推進課

鳥取県は、2008年6月にアメリカ合衆国バーモント州政府と国際親善に係る覚書を締結し、交流を推進しています。ここでは、今回で第2回目となりました鳥取県・バーモント州青少年交流事業について皆様にご紹介いたします。

1 青少年交流事業の概要(震災を受けて)

本事業は、国際的視野を持った次世代の交流の担い手を育成することを目的として実施しています。県内の高校生等を2週間程度バーモント州に派遣し、ホームステイをしながら現地の高校生と共にフィールドスタディを中心とした環境学習や米国の学校生活体験等の交流を行います。

生徒たち17名の日本出発は、震災が起きて間もない3月18日でした。そのため、心に大きな不安を抱えながらバーモントに行き、バーモントの人たちに、日本の家族は無事なのか、家は壊れていないのかなどと聞かれるたびに、遠く離れたアメリカであってもやはり世界は一つだと感じた生徒もいました。今まで想像もしたことのなかったアメリカ合衆国のバーモント州で、日本のことを思ってくれる人たちがいることに気付いたことで、

自分の狭い世界がぐっと大きく広がったのではないのでしょうか。これからは、鳥取にいても世界のことを想像できる人になってくれることと期待しています。



2 バーモントの高校

鳥取の生徒たちは、バーモントの高校の授業に参加しました。そこで驚かなかった生徒は一人も

いませんでした。“日本の高校は、先生が一方的にしゃべり、生徒は大人しく聞いているだけ。内容がわかっていようが、わかっていまいが、授業はどんどん進んでいく”と感じていた生徒たちにとって、アメリカの高校の授業スタイルは、全く異なるものでした。

訪れたバーモントの高校では、生徒たちは自由に歩き回ったり、スナックを食べたり、先生も生徒も対等に話をしていることにカルチャーショックを受けたようです。良きにつけ悪きにつけ、高校生といえども自分の意見をはっきり持っていて、しかもそれを発言する、というのは、鳥取の高校生と随分違うと感じた生徒もいました。

多くの生徒が感想に、“アメリカに行って性格が明るくなった”と書いているのは、年少でも自分の意見を述べ、自分の選択で何かを行うことが許される、むしろ推奨される文化に接した後の自己肯定感の違いであるのかなという気がします。アメリカの方が、子供を勇気付け、肯定する習慣が顕著です。

ここで誤解がないよう
にお願いしたいのは、日本の高校教育よりアメリカの高校教育の方が優れている、というわけではないということです。ア



メリカの高校と一口に申しましても、大学進学適性試験の点数で判別される高校のレベルはまちまちですし、学力の面からは一般的に高校レベルでは、特に理数系の分野において日本の高校の教育の方が優れていると認識されております。また、アメリカの公立高校は義務教育であり、大抵は特別目的自治体である学区の固定資産税で財政が

賄われているため、学区の住民の所得により教育の質が左右される傾向があります。

3 眠っていた感情が揺り動かされた

ホームステイ先の家庭では、ゆったりと会話や食事、自然を楽しむ日常のスタイルに心打たれた生徒もいました。鳥取では勉強や部活で忙しい学生生活を送り、何かに心を揺り動かされるということがなかった生徒も、バーモントでは人とじっくり関わったり、自然の美しさに感動したりしているうちに、感情がアクティブになり、バーモントを離れる頃には、小さい頃以来かと思えるほど号泣し、その号泣している自分に驚いた、と話してくれました。

将来どのような職業に就くにせよ、自分と違う様々な立場の人のことを思いやり、よいコミュニケーションをとることは必要です。多感な高校生時代に、これまで想像もできなかった世界に身をおくことは大きな糧になると思います。

4 美しいバーモント

ここから先はせっかくですから、生徒たちを温かく迎えてくださったバーモントのことについて書いてみましょう。

バーモント州は、センサス2010によると人口が全米で第49位、つまり少ない方から数えて2番目の小さな州で、約60万人と鳥取県とほぼ同じです。

バーモントが鳥取と似ているのは、高齢化の進展です。主要な産業等は、目立つところでは政府、医療、福祉であり、高齢化社会であることを裏付けています。この他に主要な産業として、コンピューター会社のビッグネームであるIBM、食品や工芸品の小規模企業等が挙げられます。また、エリアによっては、建物のオーナーの8割以上がNY州など他州の住民であるなど、リゾート特有の不動産事情もみられます。

夜輝くのはネオンという認識しか持ち合わせていない人も少なからずおられるかも知れませんが、今回バーモント州を訪れた生徒たちが感動したのは、星空です。人工の光がないため、圧倒的

な迫力で見ることができるのです。

バーモントを想像していただくのに一番相応しいのは、ミュージカル映画「サウンドオブミュージック」です。ジュリー・アンドリュース演じるマリアが第2次世界大戦の戦禍を逃れトラップ大佐と共にスイスに向かうのですが、実はこの移住先のスイスのシーンはバーモント州で撮影されました。トラップ大佐の邸宅は今でも現存しホテルとして活用されています。あの緑深い山と湖が、バーモント州の最大の特徴です。

鳥取から訪れた生徒たちも、環境学習の一環として取り組んだキーピングトラックで、雪深い山の中を獣の足跡を辿り大きな動物の死骸を発見するなど、バーモントの自然の豊かさが印象に残ったことでしょう。

その中で、生徒はシャンプレイン湖に棲む外来生物による既存種の駆逐であるとか、リン化合物による水質汚染、また森林荒廃など、環境破壊が進んでいることを、バーモントの高校生たちと一緒に勉強しました。

自然と共生したバーモントの生活を肌で感じながら、自然環境への取り組みについて学習することで、生徒たちは自然環境に対する畏敬の念と親近感が芽生えたようです。

5 むすびにかえて

日本でも今後外国籍の住民は増加するかも知れません。“多文化共生”という自国と異なる多種多様な文化を尊重することが大切になってきました。

今後の新しい日本を担うこの鳥取の高校生の感想文から、次の文章をお借りして、この稿のむすびといたします。

「全てを総括して、あらゆるものに対しての視野が広がったと思います。今までは下を向いていたのを、上向きに直した感じです。この感覚をこれからも大切にしていきたいです。もっとこんな事業を増やすべきだということを、一言付け加えたいと思います」。